

卒業論文の収録にあたって

学部改革により、卒業研究の指導のシステムが、1995年度から新しくなる。

そこで、昨年度から、卒業生の卒業論文を、予算の制約があるので1本だけ収録することにした。先輩が卒業論文の「実物」を容易に手にし、自主的に検討することができるようにするためである。卒業研究指導などの授業で「教材」として使いたいし、よりレベルの高い卒業研究がおこなわれることを願ってのことである。付随的なことだが、教育学部の他の研究室の教官や他大学の教育行政研究者などからのご批評も、あわせて期待している。

言うまでもないことだが、収録された論文が最優秀作品とは限らないことを明記しておく。

(浦野東洋一)